

1 教育目標 (R6年度案)

(1) 本校の教育目標

「チーム西成」の旗印の下、全教職員で「温かい人間関係の中で安心できる居場所があり、互いに笑顔で認め合い、自信を持って生活できる学校」を目指し、「保護者・地域から信頼される学校づくり」をしていく。

校訓「明るく 豊かに たくましく」を基盤に、「ひとみきらきら むねわくわく」を合言葉とし、その具現化に努める。

<めざす児童像>

☆豊かに

- ・めあてをもち、意欲的に取り組み続ける子
- ・自分の考えをもち、自分らしく表現できる子
- ・学びを社会、未来へと繋げる子
- ・自分の学びを自覚できる子

☆明るく

- ・進んで笑顔で挨拶できる子
- ・自分や他者を大切にできる子
- ・多様性を認め、様々な考えの人と協力できる子
- ・礼儀正しく、時間や約束を守れる子

☆たくましく

- ・自他の命を大切にできる子
- ・進んで運動し、心や体を鍛える子
- ・感謝の気持ちをもって行動できる子
- ・安全で健康な生活に心がける子

(2) 経営方針

ア 未来を拓く子どもの育成(確かな学力・豊かな心・健やかなからだ)をめざして

(ア) 確かな学力の育成

- ・「分かった」「できた」「聞きたい」「伝えたい」を引き出す「わくわく授業づくり」を行う。
- ・UDの3視点(視覚化・焦点化・共有化)の考え方を生かし、教科のねらいに迫っていく。
- ・「振り返り」の時間を確保し、学習内容の定着を図るとともに、次なる学習への意欲につなげていく。
- ・課題の提示方法を工夫することで、「なぜだろう」「やってみよう」という課題追求意欲を高める。
- ・課題追求の過程で、ペア対話やグループ活動などの協働的な学び合いの場を意図的に取り入れる。
- ・書く力・聞く力・話す力の育成を図る場面設定をし、言語活動を充実させる。
- ・積極的にChromebookや電子黒板等のICT機器を活用し、GIGAスクール推進に努める。
- ・キャリア教育を通して、社会的自立に向け、自分の役割を果たそうとする意欲や態度を育成する。

(イ) 豊かな心の育成

- ・より良い人間関係の場づくりを行い、仲間と共に居心地良く安心して過ごせる学級集団を目指す。
- ・体験的な活動を生かした道徳指導を展開し、生命を尊重し、社会のルールやマナーを身につけ、善悪の判断が主体的にできる力を育成する。
- ・授業や行事はもちろん、日常生活の中でも一人一人が認められる場をつくり、自己肯定感を高めさせる。
- ・自治的な取り組みを行わせ、「自分たちでできる」「自分たちで西成小を築いていく」という意識を持たせることで自己有用感を高めさせる。
- ・魅力的な学校図書館づくりを進めると共に、読書に親しみ楽しめる環境を整え、読書活動の充実を図る。
- ・SDGsと関連付け、総合的な学習の時間と特別活動の充実を図るとともに、様々な国や地域の伝統や文化、歴史に触れ、国際理解力を高めていく中で豊かな人間性を培う。

(ウ) 健やかなからだの育成

- ・命について学習する時間を持ち、自他の命の大切さについて理解し実践できるようにする。
- ・運動の楽しさを体感し、体力を向上させることや望ましい生活習慣の定着を図り、生涯を通じて運動に親しみ、健康で安全な生活を送るための基盤を培う。
- ・自分事として捉えられる防災教育を図る場面設定を行い、事故を未然に防ぐ力を身につけさせる。
- ・「いじめ」「不登校」「非行・問題行動」「虐待」については、相談活動の充実を図り、早期発見・早期対応ができる体制を確立し、家庭・地域及び関係機関との連携を深め、指導と支援の充実を図る。

イ 信頼される学校づくりをめざして

- ・コミュニティスクールの取り組みを根幹として、学校運営協議会や家庭・地域の意見を教育活動に反映するとともに、学校の教育活動を積極的に公開し、家庭・地域へ情報を発信するように努める。
- ・学校教育推進プランをはじめ、学校評価を充実させ、家庭・地域の意見を反映した学校運営に努める。
- ・地域の歴史・文化・自然や児童の実態に合わせて、創意工夫を生かした教育活動を展開し、児童が自分の学校に誇りが持てる活動を推進する。

- ・教職員の使命と責任を自覚し、教育愛を持って教育活動を実践し、信頼される教職員をめざす。また、全教職員がライフステージに応じた研修を受け、指導力や人間力の向上を図る。

(3) 本年度の重点努力目標

ア 未来を拓く子どもの育成（確かな学力・豊かな心・健やかなからだ）をめざして

(ア) 確かな学力の育成

- ・「きらわく学習ルール5か条」を徹底し、返事・発言の仕方・姿勢などの学習マナーを定着させる。
- ・1単位時間の流れを明示し、「課題」「対話」「全体交流」「振り返り」を重視した授業展開を工夫することで、児童が見通しをもって学習できるようにする。特に、「振り返り」の時間の確保に努め、学習内容の定着を図る。
- ・ねらいに迫るための学習活動や様々な場面での言語活動を通して、書く力・聞く力・話す力を育成する。
- ・朝のモジュール学習を有効活用し、繰り返しの復習で基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。
- ・ペア対話、グループ討議、全体発表といったアウトプットの場面では、ICT機器を用いるなどの手立てを工夫することで意欲化を図り、発表力・表現力の向上を目指す。
- ・Chromebookや電子黒板等のICT機器を活用した授業実践の研修を通して、GIGAスクールの推進を図るとともに、プログラミング教育を実施し、論理的な思考力の育成を図る。
- ・「キャリア・パスポート」を活用し、体験活動などを通して、「自己の生き方」について考える力を養う。

(イ) 豊かな心の育成

- ・基本的な生活習慣の徹底……挨拶、姿勢、整理整頓、時間厳守、廊下歩行、黙々清掃
- ・中学校区での連携や児童会活動、健全育成活動を中心として、あいさつ運動を行う。
- ・道徳の時間には、教科書での指導を中心に、質の高い多様な指導方法を取り入れた授業を展開する。
- ・「ピア・サポート活動」を取り入れ、仲間同士で相互に支え合い、問題解決していく力を養う。
- ・「西成小いじめ防止基本方針」に基づき、校内いじめ対策委員会を中心に組織的にいじめ対策に取り組む。
- ・児童会活動では、ペア学年や異学年交流を意識した活動を工夫して行い、児童の人間関係の幅を広げる。
- ・西成大根づくりや稲作、一宮東特別支援学校との交流、福祉実践教室などの体験的活動の充実を図る。
- ・図書館司書と連携し、読書週間での活動の充実を図り、本に親しみ楽しめるような場づくりを行う。
- ・SDGsに基づき、地域・環境・福祉などの課題に取り組みせ、自ら学ぶことの楽しさや達成感を味わわせるとともに、協働性・利他性・多様性等の考え方を育み、理解を深める。

(ウ) 健やかなからだの育成

- ・生命を尊重し、自他の命の大切さを扱う教育に取り組んでいく。
- ・児童にとって話しやすい聞き取り役となるように努め、教育相談活動を充実させていく。
- ・体力づくり運動やリズム縄跳び運動、きらわくかけっこ、放課の外遊びなど、体育の授業や日常生活に運動に親しむ機会を取り入れていく。
- ・手洗いやうがい、換気など、感染症対策をはじめとした衛生への意識を継続させる。
- ・交通安全教室やKYT、通学班指導、通学路の安全点検などを通して安全に対する認識を高める。
- ・生活・交通・災害安全の基本的な事項を具体的に指導し、安全に対する意識を高めるとともに、事故を未然に防止する態度と能力の育成を図る。また、施設・設備の安全管理を徹底し、非常時の防災体制づくりを推進する。
- ・係や当番、清掃や委員会等の活動を通して、勤労意欲の育成に努め、全員で力を合わせて、互いに支え合いながら学校づくりを推進する。

イ 信頼される学校づくりをめざして

- ・コミュニティスクールの取り組みにより、中学校区内での縦や横のつながりを意識した小中連携を進める。
- ・各種たよりの発行、学校ウェブサイトの更新、配信メールによる連絡、学校公開日の充実など、積極的に児童の学校生活における様子や教育活動に関する情報を発信する。
- ・各種行事のアンケートや学校評価アンケートを実施し、学校及び学級経営の改善や工夫に生かす。
- ・地域の歴史・文化・自然や児童の実態に合わせて、創意工夫を生かした教育活動を展開し、地域住民によるゲストティーチャーなどの外部講師を積極的に招へいし、地域教材等の活用を推進する。
- ・教職員の多忙化解消に向け、業務改善や効率的・機能的な職場環境の構築を図り、働き方改革を推進する。